

現場を革新する！ ゲーム『感染クラスター^{エイト}8』

一般社団法人 KISA2 隊
石田美穂、金児大地

医療介護施設の現場で働くスタッフのための革新的な学習ツールを開発しました。その名は「感染クラスター^{エイト}8」。感染対策の知識と実践を能動的に身につけられるゲームです。

コロナ禍、在宅医療との出会いから始まった

「感染クラスター8」開発に関わったそもそものきっかけは、私（金児、以下同）が介護保険事業を行う地域（大阪市鶴見区）において、ポストコロナにおける在宅医療スキームの構築をめざす「KISA2隊」の一員として、コロナ患者の診療に携わる医師・奥知久先生と出会ったことです。当時、奥先生は高齢者福祉施設のクラスター支援部隊の一人として動いており、「一緒にやろう」と声をかけてくださいました。

クラスター支援の現場に入ってすぐに気づいたのは、医療職と介護職の間の大きなギャップです。医療職は「ゼロコロナ」を目指した厳しい基準を求めますが、介護現場でそれを忠実に実行するのは難しいという実態がありました。その理由はさまざまですが、いずれにせよ、介護現場の実情を理解した上で現実的なアドバイスを行うことがなにより重要で、そうでなければ実行力は上がらず、スタッフが疲弊してしまうことになるのだと知りました。

また、クラスター支援を経て痛感したのが、クラスター発生時の緊急介入のみでは不十分であり、平時の研修が重要ということです。その思いをさらに強めたのが、2023年5月、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したタイミングでした。5類への移行によってクラスター対応は地域の保健所へと戻され、今後、KISA2隊のクラスター支援チームによる手厚い伴走型支援をこれまでのように行うのが難しくなると見込まれました。施設への個別的なサポートができなくなる以上、「個々の地域・施設で研修や学びの機会を作り、自力で問題解決できる体制になれるようにサポートする」必要性が高まったわけです。



感染クラスター8を体験中。

次の世代に学びを伝えたい

そうした背景のもとに開発されたのが、「感染クラスター8」です。体験型のゲームになっており、その舞台は未知の感染症が発生した介護施設です。プレイヤーは4人1組のチームとなって、次々と降りかかるトラブルや困難な事態から利用者・スタッフを守るために知恵を出し合い対処していく、という内容になっています。

このゲームには、KISA2隊が大阪市保健所の全面的な協力のもとに行ってきたクラスター支援の経験知が盛り込まれています。つまり介護現場の実情を十分に考慮した内容と言え、クラスターという状況の疑似体験を通し、有事の場面で必要な考え方を学べるように設計になっています。

感染クラスター8を実施すると、感染制御の知識が得られるのはもちろん、チームビルディングが図られる点も重要なポイントです。ゲームを一緒に進行すると仲間の考え方を知ることができ、有事にもチームワークを発揮できる組織を作ることにつながると考えます。

クラスター支援を通じては、施設スタッフが苦悩する様子、入居者さんやその家族が悲しむ姿を幾度となく目の当たりにしてきました。「感染症でつらい思いをする人を少しでも減らしたい、クラスターの知見を風化させず、未来に届けていくのは私たちの使命だ」という強い思いを持って、2年という時間をかけてゲームの開発に取り組んできました。関心のある方はぜひKISA2隊のウェブサイトをご覧ください。

●一般社団法人KISA2隊

<https://kisa2tai.net/lp/clustersupport/>